

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成19年9月21日

【評価実施概要】

事業所番号	270102239
法人名	社会福祉法人心和会
事業所名	あんしんハウス
所在地	青森市大野字若宮151-19 (電話) 017-739-1477
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年7月27日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月13日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	10人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.02人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り陸屋根	造り
	2階建ての	1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	利用代1,500円ほか 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,170 円	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	17名	男性	5名	女性	12名
要介護1	6名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	57歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白取医院、藤本クリニック、とよあきクリニック、ふじもと歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

外観は近代的な建物であるが、ホーム内の共有空間や居室はゆったりとしており、絵画が飾られたり、家族の写真等のなじみの物品を持ち込む等、家庭的な空間が確保されている。
 同法人は長年、身体障害者療養施設を運営してきており、これまで培ってきた介護技術をホーム利用者へのサービス提供に反映させている。職員は利用者一人ひとりのペースや希望を大切に、個々の羞恥心やプライバシーに配慮した支援を行っている。
 交通の利便性が良い住宅地で、商業施設が多い環境に立地しており、地域住民との交流を図るとともに、ボランティアや学生の実習を受け入れる等、地域密着型サービスのあり方を実践しつつあるホームである。

【特に改善が求められる点】

「敬愛・互譲・正義・信奉」という法人の理念は掲げられているが、ホーム独自の理念は作成されていない。地域との交流を深めるなど、地域密着型サービスを意識した取り組みは行われているので、全職員で話し合う等、地域密着型を意識したホーム独自の理念を掲げることに期待したい。
 災害時に備えて避難訓練は行われているが、今後は夜間を想定した訓練や飲料水等の備蓄品を用意する等の取り組みを行うと、より利用者の安全や安心につながるのではないかと期待したい。
 感染症対策についてはマニュアルを整備し、適宜の見直しが行われているが、今後はより職員の理解を深めるために、法人の協力を得たり、マニュアルを活用する等、定期的な勉強会を行う取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果について会議等で話し合い、改善に向けて具体的に取組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者や職員は評価の意義を理解しており、現場職員の意見を聞きながら自己評価を作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>日々のサービス提供状況や、自己評価及び外部評価の結果を運営推進会議で報告しており、委員から意見や指導を得て、サービス向上への取組みに反映させている。また、委員である町内会長や民生委員を通して、ホームをより地域に馴染んだものとしていきたいと意欲的である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族面会時や電話等で暮らしぶりや受診状況、小遣いの出納状況等を報告するほか、行事等の案内を行っており、家族が意見等を話しやすいよう配慮している。また、ホーム内外の苦情受付窓口を家族に周知しており、家族から意見等が出された時には日々の申し送り時や会議等で話し合い、今後のケアサービスに反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム敷地内を通る住民や散歩時に会った方々には挨拶するよう努めるほか、地域の行事への参加を通して利用者と住民が触れ合う機会を設けている。また、ホームの見学や認知症に関する相談、実習生の受け入れ、ボランティアの受け入れ等を行っており、今後は専門性を活かしてホームの機能を地域に還元していきたいと、具体策を模索中である。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>職員の異動による利用者のダメージを最小限にするため、正職員のみを対象に、2年に1回の頻度で異動を行うほか、異動時には利用者への説明や新しい職員への引継ぎを十分に行う等の支援が行われている。</p> <p>地域包括支援センターや県及び地区グループホーム協会の会議に参加する等、同業者との交流を図っている。また、母体が医療法人であるグループホームとの連携も図る等、得られた情報を今後のサービス向上や職員育成につなげている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心して生活できるように、入居前から利用者や家族の要望、意見、ニーズ等について話し合い、把握するよう努めている。</p> <p>利用者の日々の言動を観察し、得意なことは行ってもらう等、全職員は常に利用者と共に感じ、生活を共にしているという意識で日々のケアを提供している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>生活歴や希望等について利用者や家族、関係者から情報収集を行った上で職員で話し合いを行い、個々の力量を活かし、その人らしい生活が維持できるよう個別具体的な介護計画を作成している。</p> <p>利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、体調変化等があった時にいつでも相談できる医療機関を確保している。また、終末期のケアには対応していないが、急変時等の対応については入居時から利用者や家族と話し合いを行い、意思統一を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の自己決定や尊厳、プライバシーを尊重した支援を心がけており、常に利用者のペースで暮らせるよう配慮している。また、失禁時は居室で対応する等、羞恥心に配慮したケアも行われている。</p> <p>一人ひとりの生活歴等に合わせて食事の準備や片付け、掃除、ミニ菜園づくり等を促すほか、希望を取り入れながら買い物等に出かけており、利用者が生き生き暮らせるよう支援している。</p> <p>職員は身体拘束の内容等について理解しており、拘束のないケアに努めるほか、やむを得ず拘束を行う場合に備えて理由等の記録様式や家族から同意を得る等の体制が整備されている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は地域密着型サービスの役割を理解している。法人の理念として「敬愛・互譲・正義・信奉」を掲げているが、事業所独自の理念を掲げるまでには至っていない。	○	法人の理念のほかに、地域密着型サービスの役割を反映させた事業所独自の理念を全職員で話し合っって作成する等の取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	名札の裏に理念を印字するほか、月1回のケア会議時に全職員で理念を唱和しており、理念の意味を理解した上で日々のケアを提供できるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	大通りに出るために敷地内を通る住民や散歩時に会った方には声がけするよう努めるほか、町内会の行事等に積極的に参加し、地域との交流を図っている。また、ホーム見学や認知症に関する相談、実習生、ボランティアを受け入れており、地域に開かれたホーム作りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を理解しており、現場の職員の意見を聞きながら自己評価を作成している。また、外部評価の結果について会議等で話し合い、改善に向けて具体的に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の生活状況やサービス提供の状況、外部評価の結果等を報告しており、委員の意見を伺い、それをサービスの質の向上につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当課に自己評価や外部評価の結果、運営推進会議の議事録等を提出し、サービス向上に向けた意見や指導をもらっている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者1名が成年後見制度を利用していることもあり、職員は権利擁護事業や成年後見制度に関して概ね理解している。また、今後も学習会を開催して理解を深めていく予定である。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケア提供時やミーティング時に虐待事例等について職員に話をしているため、職員は虐待について理解しているが、虐待を発見した場合の対応方法等についての取り決めは作成されていない。	○	全職員で話し合いを行う等、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等について取り決めを作成し、職員に周知していくことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者や家族等に対して、事業所の理念やケアの方針、取り組み等について説明し、疑問や意見を引き出す働きかけを行っている。また、契約内容の改訂や退居の際にも十分に説明を行い、必要に応じて退居先の支援を行う等、利用者や家族に不安を与えないよう配慮している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時などに生活状況や受診状況、小遣いの出納状況、職員の移動等を家族に報告しており、出納状況については領収書を添付して家族の承認を得ている。また、面会になかなか来れない家族には、電話や郵送で報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には声がけを行う等、家族が意見や苦情を話しやすい雰囲気作りを行っている。重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示して家族に周知するとともに、家族から意見等が出された時には会議等で今後のケアサービスに反映させていくための話し合いを行っている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動による利用者へのダメージを最小限にするため、3名の正職員を対象に2年に1回くらいの異動となっている。異動時には利用者の状況を見ながら説明を行うとともに、新しい職員との引き継ぎは十分に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には多くの研修に派遣する等、職員個々の力量や経験に応じた研修を受講できるよう配慮している。また、研修後は研修報告書を作成してケア会議等で報告し、全職員への周知を図っている。研修受講の時には日勤者を増やす等、職員体制に配慮しているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	これまでの研修主催団体に問い合わせたり、職員の今までの研修受講歴を把握する等の取り組みを通して内部・外部研修の年間計画を作成すると、より職員個々の希望や力量にあった研修を受講することができるのではないか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管轄の地域包括支援センターの会議や県グループホーム協会、地区グループホーム協会等に参加して同業者との交流や情報収集を図っている。また、母体が医療法人のグループホームとの交流や連携も図られており、得られた情報をサービスの向上や職員育成につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを開始できるよう、利用者と家族の意向を確認している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の感情を理解するよう努めるとともに、利用者が得意なことは行ってもらう等、利用者職員と共に助けあって生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の言動や家族からの情報を基に、一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者や家族の意向を聞いた上で職員間での話し合いを行っており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、期間終了後には見直しを行っている。また、利用者の状態や家族の希望等の変化時には再アセスメントを行った上で随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望等に対し、ボランティアによる外出支援を計画する等、柔軟な対応が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族の希望する医療機関での受診を支援している。また、体調変化等のある時にいつでも相談できる医療機関も確保している。歯科と眼科の通院は家族が行っているが、それ以外の受診についても受診結果について家族との共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期には対応していないが、急変時等の対応については入居時から利用者や家族と話し合いを行い、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った声かけや羞恥心等に配慮した対応を心がけ、利用者個々の人格を尊重した支援を行っている。また、個人情報保護法について職員は理解しており、個人に関する記録物等は事務所に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先しないよう職員間で気をつけ合っており、利用者一人ひとりの生活リズムやペースを大切に支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人の栄養士が作成しているが、利用者の希望等に合わせて適宜好みの食材を取り入れている。食事の準備や片付けを利用者に手伝ってもらったり、検食として毎食職員と一緒に食事を摂る等、楽しい食事となるよう工夫している。また、食べこぼし等へのサポートも行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間等には利用者の希望を取り入れたり、入浴を拒否する利用者には声がけに工夫する等、一人ひとりの習慣に配慮しながら無理強いすることなく入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴等を把握しており、個々に合わせて食器洗いや食器拭き、掃除、ミニ菜園等の楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を取り入れながら、近所の散歩や買い物等に出かけている。外出時にはその日の体調や移動手段等にも配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容や弊害を理解しており、拘束のないケアを実践している。やむを得ず拘束を行う場合に備えて、理由等を記録したり、家族から同意を得る等の対応に関するマニュアルが整備されている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い通りに面しているため、家族の同意を得た上で玄関の自動ドアを遠隔操作している。外出傾向のある利用者には見守りを行い、察知した時には職員が付き添う等の支援を行っている。また、無断外出時に備えて交番からの協力が得られる体制が整えられている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には警察署や消防署からの協力が得られるほか、2ヶ月に1回避難訓練を実施しているが、夜間を想定した訓練や備蓄品の用意等を行うまでには至っていない。	○	夜間を想定した避難訓練を実施するとともに、災害時に備えて食料や飲料水、寒さをしのげる物品等の備蓄品を用意することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士が献立を作成しており、カロリーに配慮した献立となっている。また、水分は1,500ccを目安に提供しており、食事や水分の摂取量は記録し、把握している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを整備し、保健所等からの情報が入った時などは随時の見直しを行っているが、感染症に関する定期的な勉強会等の機会は設けられていない。	○	法人内の他施設の協力を得たり、マニュアルを基にする等、定期的な学習会を行うことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きなビルをリフォームした建物であるが、ホーム内には絵画を飾ったり、家庭的な調度品を置く等の工夫が行われている。職員の立てる物音やテレビ等の音量は適切であり、また、ホーム内の明るさも適当である。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
35	80	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物の持ち込みを家族に依頼しており、衣装ケース等の生活用品や、家族の写真や位牌等の物品が持ちこまれ、個性のある空間となっている。		

※ は、重点項目。